

県内学校ミニ・ニュース (市川市立高谷中学校)

本校は、昭和54年に開校し、今年度で創立45年を迎えます。近隣は、東京のベッドタウンの色彩が強く、幼稚園から短期大学まで豊富な教育機関があり、福祉施設も多く存在します。また、江戸川や三番瀬などの自然環境にも恵まれた地域です。

市川市の掲げている教育の基本理念「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」の「つなぐ教育」を具現化すべく、令和4年度より、学区の2つの小学校とともに3校で小中一貫型小学校・中学校「信篤三つ葉学園」をスタートさせました。「信篤三つ葉学園」（信篤小学校・二俣小学校・高谷中学校）は、正式な学校名や校舎などは、今までと変わることなく、義務教育学校に準じた形で義務教育9年間の一貫した教育活動の実践を行っています。

9年間をつなぐ小中一貫教育の実践として、昨年度は「中学校教員による小学校への乗り入れ授業」や「3校合同オンライン集会」、「講演会の合同実施」、「中学校の生徒会による小学校6年生への学校説明会」、「小学生の中学校授業参観」などを実施しました。

乗り入れ授業は、中学校教員の専門性を生かすというねらいで、そのとりかかりとして体育科（ボール投げ）と図画工作科（デッサン）で行いました。技術的な指導を中心に行った結果、児童にその感想を聞くと「前よりもできるようになった」といった意見が多く出ました。



タオルを使ったボール投げの練習



児童が描いた自分の手

さらに、今年度、乗り入れ授業を受けた児童が本校の1年生として入学し、現在ほとんどの生徒が元気に中学校に登校してくる姿が見られ、乗り入れ授業の感想の中にも「中学校でどんな授業をしているのかが分かった」というものがあつたことから、中1ギャップの解消に大きくつながったように感じています。教員も入学前の生徒の様子を知っていること、生徒も入学前から中学校の教員や、授業の雰囲気を知っていることは、非常に大きな影響があると思われまふ。

今年度は、すでに教員によるそれぞれの学校に出向いての授業参観を英語科・社会科で行っており、今後、他の教科でも乗り入れ授業を実施する予定です。まずは、できることから連携を進め、信篤三つ葉学園の小学校2校の多くの児童に高谷中学校のことを知ってもらい、中学校生活に対する不安を和らげ、小学校から中学校の9年間の教育をしっかりと「つなぐ」ことを実践していきます。